

事業番号	事務事業名	「ウランのふる里研究所」構想推進事業			所管課名	まちづくり課	令和 3 年度課長名	柳井 和彦
00633	政策名	4	快適な生活環境の里づくり			係名	担当者・シート作成者	小林 英将
	施策名	45	定住化の促進			根拠法令等		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 29 年度~ 3 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	平成29年2月に岡山大学との間で締結した「鏡野町と岡山大学との寄付講座設置に関する協定書」により、令和3年度についても岡山大学中性子医療研究センターで寄付講座による研究を実施した。 内容的には、がん治療を対象とした中性子医療分野の研究を進めながら、最終的には治療を行える研究・医療施設を誘致することを目標に、3年度においても薬剤開発や機器開発研究を進めてきた。なお、3年度で寄付講座期間が終了となるため、今後の対応についての協議も行った。	平成27年2月に鏡野町、岡山大学、JAEAは地域の特性に立脚した「エネルギー環境」等3分野で研究協力と人材育成の活動を通じて、地域のみならず国際的にも貢献していくことを目的に協定を締結した。この中で、鏡野町の活性化を実現する施策として、中性子医療研究所(仮称)とウラン環境研究所(仮称)を誘致整備する目標を掲げたことがきっかけである。

2. 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

①対象(誰、何を対象にしているのか)		④対象指標		単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア	岡山大学	→	ア	寄附講座設置数	見込 実績	1 1	1 1	1 1	0 0	0 0
イ		→	イ		見込 実績					
ウ		→	ウ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)		⑤成果指標(意図の達成度)		単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア	研究の推進	→	ア	研究数	目標 実績 達成率	7 7 100.0%	7 7 100.0%	7 7 100.0%	0 0	0 0 #DIV/0!
イ		→	イ		目標 実績 達成率					
ウ		→	ウ		目標 実績 達成率					

③主な活動内容		⑥活動指標		単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア	研究の推進	→	ア	研究数	目標 実績 達成率	7 7 100.0%	7 7 100.0%	7 7 100.0%	0 0	0 0 #DIV/0!
イ		→	イ		目標 実績 達成率					
ウ		→	ウ		目標 実績 達成率					

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		01 款 02		01 項 01		13 目 01		13 目 04					事業番号			
	一般会計		総務費		総務管理費		科学技術関係諸費		「ウランのふる里研究所」構想推進事業								
予算(千円)	1 年度実績	2 年度実績	3 年度実績	4 年度見込	5 年度見込	前年比	決算(千円)	1 年度実績	2 年度実績	3 年度実績	4 年度見込	5 年度見込	前年比				
国庫支出金							国庫支出金										
県支出金							県支出金										
町債							町債										
その他特財	20,000	20,000	20,000	0	0		その他特財	20,000	20,000	20,000	0	0					
一般財源	163	0	0	0	0		一般財源	0	0		0	0					
合計	20,163	20,000	20,000				合計(A)	20,000	20,000	20,000			0				
財源名称	かがみの創生基金繰入金						従事正職員人数	1	1	1	1	1					
							延べ業務事務時間	200	200	200	40	40					
							人件費計(千円)(B)	700	669	670	137	137	1				
	最終予算額		20,000 千円		予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)	20,700	20,669	20,670	137	137	1		
主な支出事業内容(予算)	岡山大学「中性子医療研究センター」への寄付金						20,000 千円		主な支出事業内容(決算)	岡山大学「中性子医療研究センター」への寄付金						20,000 千円	

事業番号	00633	事務事業名	「ウランのふる里研究所」構想推進事業	所管課名	まちづくり課
------	-------	-------	--------------------	------	--------

#### 4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 締結された協定を基本とし合意の上で実施されているが、現在も変わりはない。ただし、岡山大学での薬剤開発などの研究成果は確実に上がっている。令和3年度は、寄付講座の最終年度であったことから、5年間の成果報告について岡山大学にて取りまとめられ、議会等に報告集が配布された。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯 寄付講座を開設している中で、岡山大学中性子医療研究センターの国際連携部門と協議は行っているが、事務を改善し効率よくといった内容ではない。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか? 将来、鏡野町内に中性子医療関連研究拠点を設けることを目標としていることから、岡山大学を中心に協議を進めているが、コロナ禍の影響や研究の進捗状況から、詳細なスケジュールについては示していない。ただ、一方で議会などからは情報提供や、事業の完全実施、協議への参加を求める要望が強い。

#### 5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	<b>理由説明</b> 令和3年度鏡野町経営方針の重点施策の中に「定住化の推進」が掲げられ、取り組みの一つとして「町の知名度の向上対策及び情報発信」が掲げられているが、まさに知名度向上及び鏡野町の魅力向上に繋がる取り組みであることから、政策体系に結びついている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
有効性 評価	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	<b>理由説明</b> 将来、鏡野町内に中性子医療関連研究拠点が完成した場合、直接的に鏡野町の知名度及び魅力向上に寄与すると考えられる。また、住民に関しては、身近に治療を受けられるといったメリットもある。町が主体となって施設運営を行うことは想定していないが、目標達成に向け事業推進のために町が関与していくことは、必要かつ重要である。
	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	<b>理由説明</b> 薬剤研究については岡山大学、医療機器については名古屋大学を中心に研究が進められており、総ての研究は、最終的に臨床試験等を経て医療行為に用いることが出来るようにするための内容であることから、対象と意図を見直す余地はない。
効率性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	<b>理由説明</b> 研究としては順調に進んでいるものの、それと並行して施設建設の準備が進んでいない所に問題や向上余地があるものとする。原因としては事業主体と多額の資金を必要とする部分において、調整が難航していることにある。(コロナ禍の影響もかなり受けている。)
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
公平性 評価	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がない <input type="checkbox"/> 影響がある	<b>理由説明</b> 令和3年度が寄付講座の終了年度となることから、今後の対応について岡山大学と協議した。コロナ禍の影響や研究推進の状況から総合的に判断し、一旦、ここで寄付講座は終了するものの、お互いの関係性は維持しながら、研究は従来通り進める中で、今後、新たに協議を行う内容で双方合意している。
	⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	<b>理由説明</b> あくまでも町は事業主体でなく、医療分野の研究など町が独自に行っていくことは出来ないが、現在までの研究成果を応用し、実行できる部分から着手すれば、少しずつでも目に見える形を残すことが出来るのではないかと考える。
公平性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない	<b>理由説明</b> 令和4年度からは寄付講座を実施しないので、それに係る経費は削減できる。ただ、話の進展により、この先町がどの程度の費用負担が必要になるのかについて、現時点では判断できない。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	<b>理由説明</b> 将来的な構想を含め現在の研究の進め方やその内容について、町としても関与し頻りに打ち合わせや研究会などへの参加を行っているが、兼務1名体制の中、必要最小限で行っているため、これ以上の削減余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	<b>理由説明</b> 目的の中で、中性子医療関連研究拠点を町内に作り、癌で苦しんでいる患者さんの治療に寄与していくことを目指しており、少なからず町民には公平にメリットがある前提の上で、岡山大学とは協議を行っているため、公平・公正である。

#### 6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	・目的妥当性については、町の政策体系ならびに経営方針に基づいて実施されているものであり、適切である。 ・有効性等については、岡山大学との関係性は継続しつつも、ここで一旦、寄付講座を終了し、今後新たに協議ということから、見直しの余地がある。 ・効率性についても、有効性と同じく、今後の展開次第となるため、見直しの余地がある。 ・公平性については、事業の内容から、適切であると判断する。																							
B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 寄付講座が一旦終了することから、予算を伴わなくなり、事務事業マネジメントシートの対象としては今年度をもって休止となる。 ただ、岡山大学との関係性は維持し、寄付講座がなくとも大学側は今までもおり研究を進め、状況を見ながら町と協議することについての、事業そのものが完了するわけではない。																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1" style="display: inline-table;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持					低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持																								
	低下																								
寄付講座を継続しない中、当面は岡山大学中性子医療研究センターや粒子線医療研究所などと定期的に情報交換を行いながら、状況を見守る必要がある。その上で、必要に応じ協議を進めるという形にしか、今のところならない。																									